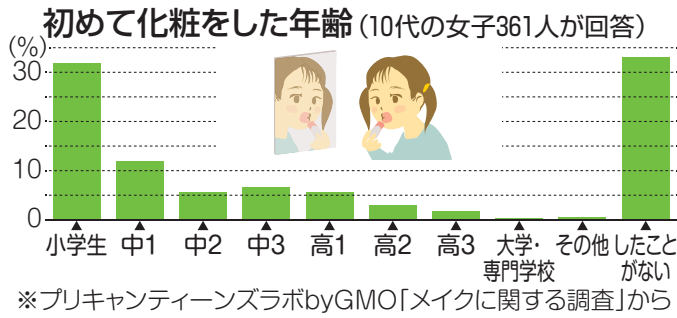


最近さいきんは小中学生しょうじゅうせい向けの雑誌ざっしでも化粧けしょうの仕方しかたが紹介しょうかいされています。休みの日ひや特別な日ひに化粧けしょうをしてお出でかけする子こも多いと
か。一方で「子こどもにはまだ早はやい」と言いう大人おとなもいます。女おんなの子こたちは化粧けしょうをしてか
わいくなりたいですか？ 男おとこの子こたちは化粧けしょうをする女おんなの子こをどう思おもいますか？

(平井一敏ひらいかずとし、吉田瑠里よしたるり)



気持ち明るくなる

◆子どもでもOK

二〇一七年に国内の研究機関が十〜十九歳の女子三百六十一人に聞いたアンケートでは、三人に一人が小学生の時から化粧をしていて回答。ピアノやバレエ、ダンスなど習い事の発表会で化粧をしたことがある子も多いだろう。

くらしの中から考える

化粧

◆大人になってから

大人でも化粧で肌が腫れたり、かゆくなったりする人もいます。子どもの皮膚病に詳しい皮膚科医の岡村理栄子さんは「子どもは大人より肌がかぶれやすいので、化粧をしない方がいい」と話す。

肌がかぶれる心配

岡村さんによると、子どもの皮膚は大人より薄く、脂分が少ないため乾燥気味。化粧品に含まれる金属や香料などの化学物質にも敏感で、かぶれやすい。しかも、いったんかぶれるとアレルギーになり、一生、その物に触るとかぶれてしまうように。大人になってから化粧を始めるより、アレルギーを引き起こす物質が多くなる可能性が高いといっつ。

昔、女性の化粧は表情を隠して上品に見せるためだったとか。男性も成人や高い身分を証明するものとして化粧をしていったという。それでは、今は？ 子ども用化粧品メーカー「レイス」の朝倉英子さんは「化粧をしてかわいくなると気持ちも明るくなり、前向きに行動できる」。

子ども用も中身はほぼ大人用と同じ。法律で認められた成分だけで作られている。レイスの商品は六歳以上が対象だが、理由は誤飲を防ぐため。化粧品そのものに年齢制限はない。ただ大人用のマニキュアを落とす除光液は爪を傷めやすいため、レイスのマニキュアは水で落とせる。目や口に塗るアイシャドーやリップグロスの色は薄めで、香りも抑えている。昨年の化粧品セットの販売数は前年の一・五倍で人気ぶりが分かる。

一方、アトピーやアレルギーのある人、肌が弱い人は使わないよう明記。「ほとんどの化粧品は毎日使っても心配ない」と朝倉さん。「ママに教わりながらすれば親子のコミュニケーションも深まる」

中学生くらいから次第に、皮膚は厚く、脂っぽくなり、かぶれにくくなる。「化粧をするなら、皮膚が完成する十八歳くらいから」。ただ、まぶたの皮膚は薄く、乾燥気味のまま。二重にするためのテープや接着剤でもかぶれやすい。かぶれても使い続けると、皮膚が硬く、厚ぼったくなることもある。

また、唇は乾きやすく、特に空気が乾燥する冬はかさつき、切れて出血しやすい。保湿用のリップクリームを塗るのがいい

意見送ってください

皆さんがどう思ったかを送ってください。紙面で意見を紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼント。応募は〒460 8511 中日新聞 (東京新聞) 生活部「学ぶ」係＝ファクス052 (222) 5284、メールseikatu@chunichi.co.jp＝へ。QRコードから、ワークシート兼応募用紙もダウンロードできます。

